

ゼミナール紹介

担当者名	井徳正吾
e-mail アドレス	itoku@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	3410 研究室
在室曜日・時限	火曜日 13:00～ 木曜日 13:00～
個別説明会 (日時・場所)	10/4 14:00～17:00 3410 研究室にて 10/5 6421 教室にて ①13:30～14:30 ②15:00～16:00 ③16:30～17:30
ゼミ見学可能日 (日時・場所)	10/11 10:00～12:30 4303 教室 (ゼミ生が対応) 10/18 10:00～12:30 4303 教室 (教員&ゼミ生が対応)
選抜方法	面談にて決定。(成績よりもゼミへの取り組み・やる気を重視)
ゼミナールに 関連する科目	社会調査、調査集計法 (SPSS が使えることが望ましい)、企画書の作成とプレゼンテーション技法、イラレ OR フォトショップが使えることが望ましい
2017 年度担当科目	コミュニケーション戦略論、マーケティング・コミュニケーション論、キャリア研究 企画書の作成とプレゼンテーション技法
授業概要	<p>少人数による専門性の高い演習形式の授業である。内容は、各教員の専門によって特化したものになる。理論系のゼミナールでは、各自の設定したテーマについて必要なデータを集めて分析し、論文を作成し、口頭発表する能力を身につける。制作系のゼミナールでは、雑誌・ポスター・CG 作品など、各種メディアにおけるコンテンツ制作を行う能力を演習を通じて身につける。</p> <p>なお、本ゼミナールは実戦形式を重んじ、実際の企業から提示された企業課題を、広告や広報・PR や、セールスプロモーション、パッケージデザインなどのマーケティング・コミュニケーションを用いて解決する方法を学ぶ。</p> <p>具体的には、神奈川経済同友会主催の「産学協同チャレンジプログラム」にエントリーすることで、マーケティング・コミュニケーション戦略のプランニングの仕方を習得する。このプログラムは神奈川県内にキャンパスを置く 30 の大学が参画する県内最大の企画コンペ。参加チームは毎年 250 チームに及ぶ。このコンペで企業から提示された課題の中からゼミに最適なテーマを選び、チーム単位で作業に取り組む。作業が完成したら、提案書にまとめ、実際の企業を相手にプレゼンテーションを実行する。</p> <p>一連の作業を通じて、オリエンテーションの理解の仕方～作業フローの立案～マーケティング・リサーチの企画～リサーチの実施～集計・分析～報告書の作成～アイデア出し・企画立案～提案書の作成～プレゼンテーションの実施までを一気通貫で学ぶ。</p>

ゼミナール紹介

担当者名	岡野雅雄
e-mail アドレス	okano.3210.bunkyo@gmail.com
研究室	3210 室
在室曜日・時限	水曜日(会議のない日の午後のみ)・金曜日 (2,3 時限)ほか空き時間
個別説明会 (日時・場所)	空き時間には随時説明します。場所は 3210 研究室です。
(ゼミ見学可能日 (日時・場所)	見学可能日 10/11 2 時限(できればメールで予約してください)。 場所は 3210 研究室です。
選抜方法	もし定員以上となったら、ゼミ内容と志願理由の適合性および成績によって選抜します。
ゼミナールに 関連する科目	記号論、コミュニケーション論基礎、言語コミュニケーション論
2017 年度担当科目	記号論、コミュニケーション論基礎、言語コミュニケーション論、基礎演習 A、プレゼミナール A、ゼミナール、卒業研究
授業概要	<p>少人数による専門性の高い演習形式の授業である。内容は、各教員の専門によって特化したものになる。理論系のゼミナールでは、各自の設定したテーマについて必要なデータを集めて分析し、論文を作成し、口頭発表する能力を身につける。制作系のゼミナールでは、雑誌・ポスター・CG 作品など、各種メディアにおけるコンテンツ制作を行う能力を演習を通じて身につける。</p> <p>◆本ゼミナールの<u>基本的なテーマ</u>は、「言語あるいは記号によるコミュニケーション」です。</p> <p>最終的な到達目標は、各自の設定したテーマについて必要な資料やデータを集めて分析し、<u>論文を作成する能力</u>を身につけることです。</p> <p>「卒業研究」で論文を書くことを前提にゼミを進めてゆきますので、ゼミ選択の際には注意してください。</p> <p>◆ゼミナールの<u>具体的な進め方</u>は、以下のとおりです。</p> <p>春学期は、コミュニケーションに関する本を購読します。そして、その内容にもとづいて発表し、討議します。秋学期は、より卒論を意識して情報収集・購読・討議を行います。その過程で、以下にあげるような知識・技能を身につけます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レジュメ作成の方法、口頭発表の仕方、新聞、雑誌記事の検索、調査結果のまとめ方、グラフや表の作成、問題発見(リサーチ・クエスチョンの設定)、等

ゼミナール紹介

担当者名	加藤綾子
e-mail アドレス	ガイダンス時に伝達する
研究室	6208
在室曜日・時限	原則として水曜日の昼休み(授業時に確認してください)
個別説明会 (日時・場所)	①10月5日(木)4202 教室, ②10月13日(金)4403 教室 ①②いずれも昼休み 12:40 頃～13:05 頃 (予約不要. 飲食可) ※当ゼミ履修希望者は、ゼミ見学または個別説明会にて直接相談をしてください。 見学や説明会に来られない場合のゼミ選択に関する質問: edu-gakusei まで.
ゼミ見学可能日 (日時・場所)	10月4日(水), 11日(水), 18日(水), 25日(水) の2限, 7402 教室, 入退室自由
選抜方法	志望理由書, 成績, (場合によっては面接) をもとに総合的に判断する.
ゼミナールに 関連する科目	下記科目 および 2018 年度以降に開講予定のパーソナルデータ倫理・法制, 著作権ビジネス論. 情報学特殊講義 B も, ゼミ履修開始後で構わないので受講することが望ましい.
2017 年度担当科目	卒業研究, ゼミナール, 基礎演習 B, プレゼミナール B, キャリア研究 A, 広告論, 広告表現論, テレビコマーシャル論, クロスメディア・コミュニケーション, コミュニケーションデザイン論, 情報学特殊講義 B
授業概要	<p>少人数による専門性の高い演習形式の授業である。内容は、各教員の専門によって特化したものになる。理論系のゼミナールでは、各自の設定したテーマについて必要なデータを集めて分析し、論文を作成し、口頭発表する能力を身につける。制作系のゼミナールでは、雑誌・ポスター・CG 作品など、各種メディアにおけるコンテンツ制作を行う能力を演習を通じて身につける。</p> <p>このゼミナールでは、情報・メディア・コンテンツ・広告などに関する基礎的な文献講読を行い、その上で、各自がテーマを定めて調査・分析・報告を行う。本ゼミナールのアプローチは社会科学系の手法に則る(定性、定量、いずれのアプローチも可)。学生は毎回、文献の担当箇所や各自の進捗状況について報告を行う。最終報告の形式は、論文の体裁をとったレポートとプレゼンテーションの双方を予定している。これらの作業を通じて、デジタル化・ネットワーク化などの変化が生じるなかでこの分野の産業やビジネス、企業、消費者、財・サービス、法制度などがいかに変容しているのかを考え、卒業研究につなげていくことを目標とする。</p>

ゼミナール紹介

担当者名	酒井 信
e-mail アドレス	wayne80@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	3401
在室曜日・時限	水木金
個別説明会 (日時・場所)	10月11日、14日(土、1限・補講)、18日のゼミ終了後 場所:6107教室 *参加する場合は前日の24時までにメールすること(事前の情報伝達のため)。
ゼミ見学可能日 (日時・場所)	10月11日(水)、14日(土、1限・補講)、18日 場所:6107教室 *参加する場合は前日の24時までにメールすること(事前の情報伝達のため。なお10月18日は篠崎ゼミとの合同ゼミの回で、篠崎先生への公開取材を実施)。
選抜方法	希望者が定員を上回った場合のみ、面談、志望理由、学内外の活動、成績、将来性を総合的に評価し、選抜。
ゼミナールに関連する科目	基礎演習A、プレゼミナールB、文章演習IⅡ
2017年度担当科目	ゼミナール、卒業研究、基礎演習A、プレゼミナールB、文章演習IⅡ、ジャーナリズム論、小説・評論演習
授業概要	<p>少人数による専門性の高い演習形式の授業である。内容は、各教員の専門によって特化したものになる。理論系のゼミナールでは、各自の設定したテーマについて必要なデータを集めて分析し、論文を作成し、口頭発表する能力を身につける。制作系のゼミナールでは、雑誌・ポスター・CG作品など、各種メディアにおけるコンテンツ制作を行う能力を演習を通じて身につける。</p> <p>なお本ゼミでは、活字メディアを中心としたコンテンツ分析や冊子制作を行う。年度毎にテーマを定め、同時代の社会事象に関する分析を行い、冊子「メディア表現」にコラムとしてその成果を反映させる。同時進行でメディア論、情報社会論に関する文献を精読し、広義のメディア学に関する知識を身に付ける。その他、神奈川県(特に湘南地方)を舞台としたコンテンツについての取材・分析も行う。外部のメディア関係者に課題の評価を行ってもらい機会も用意する。各課題を通して、手を使って活字を漁り、足を使って様々な人や場と関わり、頭を使ってその成果を論理的にまとめ上げるトレーニングを積んでほしい。</p>

ゼミナール紹介

担当者名	高田 哲雄
e-mail アドレス	mmtake@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	3305
在室曜日・時限	火曜 3限,5限/ 水曜 4限 (第3水曜は教授会) 木曜 3限,5限/要事前メール
個別説明会 (日時・場所)	高田授業受講者はその時間にも行います。 ゼミ見学を兼ねて水曜午前(7201)に来た人にはその場で説明します。
ゼミ見学可能日 (日時・場所)	水曜 1.2限(メディア棟 7201)
選抜方法	文章は教育支援課提出のもので判断します。それ以外に作品等による自己アピールの資料を A4 サイズ1枚分くらい(画像を主とする)で高田メールに添付で送ってください。音声、動画等の添付も可(20MB以下)。 定員を超えた場合面接を行うことがあります。(その場合はメールで連絡します)
ゼミナールに関連する科目	春学期: ショート・ムービー、アニメーション制作 A, B 秋学期: モバイルコンテンツ制作 (1科目以上)を受講していることが望ましい。
2017年度担当科目	春学期: ショート・ムービー、アニメーション制作 A, B、共通教養: 美術、学部共通: サブカル 秋学期: モバイルコンテンツ制作、共通教養: 美術、学部共通: サブカル
授業概要	<p>少人数による専門性の高い演習形式の授業である。内容は、各教員の専門によって特化したものになる。理論系のゼミナールでは、各自の設定したテーマについて必要なデータを集めて分析し、論文を作成し、口頭発表する能力を身につける。制作系のゼミナールでは、雑誌・ポスター・CG作品など、各種メディアにおけるコンテンツ制作を行う能力を演習を通じて身につける。</p> <p>CGや3D立体映像技術などを活用しながら、コンテンツ・クリエイションにチャレンジします。CG&アニメ、漫画、ゲーム、キャラクター制作、サウンド&DTM、空間デザイン、シナリオ開発、インスタレーションなどの個人テーマの選択が可能。</p> <p>① 全体の流れ②個人テーマと共通テーマの説明③コンテンツ・プロデュース④活用メディア&アプリケーションの紹介。⑤個人テーマ発表。⑥オリジナルコンテンツのテーマ決定。⑦イメージの展開と表現技術の習得。⑧プロダクション (VRスタジオの活用)。⑨ポストプロダクション&プレゼンテーション。⑩学外発表。</p> <p>到達目標は自己目標としての個人テーマを発見し自身の表現スタイルを実現できたかどうか。個人テーマの追及が未完成情况は共通テーマの達成度で評価する。</p>

ゼミナール紹介

担当者名	竹林 紀雄
e-mail アドレス	noritake@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	3411 号室
在室曜日・時限	ゼミ志望者へは水曜日 2 時限目終了後に 3 号館 3114 教室で対応
個別説明会 (日時・場所)	個別説明会 ※希望者の一人ひとりの相談や質問に対応します。 10/4 16:00～17:30 3号館1階スタジオA 10/11 16:00～17:30 3号館1階スタジオA <u>※10/4、10/11については前日の昼12時までにメールで予約をとってください。</u> 10/25 13:30～16:00 3号館1階スタジオA <u>※10/25については、予約の必要はありませんので自由に来てください。</u>
ゼミ見学可能日 (日時・場所)	※ゼミ活動は午後も予定していますが、見学は基本的に2時限目に対応 10/4 3114 教室 (3年生の企画プレゼンテーション) ※スタジオAの可能性もあり 10/11 3114 教室 (3年生の企画プレゼンテーション) ※スタジオAの可能性もあり 10/18 スタジオA (3、4年生合同でスタジオ収録) 10/25 スタジオA (3、4年生合同でスタジオ収録) <u>※収録中のスタジオは収容人数に限りがあります。</u> <u>ゼミ見学を希望する場合は、必ず竹林にメールで予約をしてください。</u>
選抜方法	志望者は原則的に受け入れます。ただし、定員を上回った場合のみ面接、簡単な試験等により選抜します。
ゼミナールに関連する科目	3セメスターまで ○演習系科目 「映像表現Ⅰ」、「映像ポストプロダクション演習(映像編集・MA・完パケ)」「映像技術演習Ⅰ」、「映像プリプロダクション演習Ⅰ(企画)」 4セメスター以降 ○演習系科目 「映像表現Ⅱ」、「映像技術演習Ⅱ」、「テレビ番組制作(スタジオ)」、「アニメーション制作C(アート表現)」 「映像プリプロダクション演習Ⅱ(構成)」 ○講義系科目 「映画史」、「映像メディア論」、「ドキュメンタリー論」 <u>特に「映像表現Ⅰ」、「映像表現Ⅱ」は竹林ゼミナールにつながる科目です。</u>
2018年度担当科目	「映像表現Ⅰ」、「ドキュメンタリー論」、「卒業研究」、「ゼミナールⅠ」、「映像メディア特論」(大学院)、「映像メディア論」、「映画史」、「テレビ番組制作(スタジオ)」、「映像表現Ⅱ」 「プレゼミナールC」
授業概要	<p>少人数による専門性の高い演習形式の授業である。内容は、各教員の専門によって特化したものになる。理論系のゼミナールでは、各自の設定したテーマについて必要なデータを集めて分析し、論文を作成し、口頭発表する能力を身につける。制作系のゼミナールでは、雑誌・ポスター・CG作品など、各種メディアにおけるコンテンツ制作を行う能力を演習を通じて身につける。</p> <p>本ゼミナールでは、在京テレビ局をはじめ映像業界と連携し、テレビ・映像分野全般のプロフェッショナル育成を視野に入れた映像表現教育を行います。具体的には、様々なジャンルの独創的な映像作品を鑑賞し映像表現への理解を深めると共に、映像作品の制作に取り組みます。課題作品の制作に臨むにあたってゼミ生に求めるのは、これを課題として捉えるのではなく、対外的にも「作品」として主張できるものを手掛ける姿勢をもつということです。優れた作品は、映画祭や映像フェスティバルに積極的に橋渡しをします。ゼミの課外活動としては、まず、ゼミ生全員参加で毎年実施するゼミ研修(合宿)があります。3泊前後で国際的な映画祭などへ参加する予定です。この他にも、主に都内での映像作品の鑑賞や映像フェスティバルへの参加、またテレビ業界や映画業界の第一線で活躍する方々との交流も予定しています。さらに、学外での取材・ロケの実習は日常的に行います。このような課外活動は基本的に全員参加で行います。またゼミ活動に時間を要しますので、部活動やサークル、アルバイトなどで忙しい方には向かないゼミです。</p>

ゼミナール紹介

担当者名	田畑則重
e-mail アドレス	ntabata@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	3208
在室曜日・時限	火曜 5 限終了後 30 分ほど 第 1・4 水曜昼休み 金曜昼休みと 5 限
個別説明会 (日時・場所)	10 月 4 日 13:20~14:00 3208 研究室
ゼミ見学可能日 (日時・場所)	10 月 4・11・18 日 2 限 1209 教室
選抜方法	関連科目の履修状況と成績、GPA を総合判断
ゼミナールに 関連する科目	出版論、雑誌文化論、インタビュー・取材論、出版演習、ノンフィクション演習をなるべく多く修得していることが望ましい。
2017 年度担当科目	プレゼミナール A 出版論 雑誌文化論 インタビュー・取材論 出版演習 ノンフィクション演習 インターンシップ ゼミナール 卒業研究
授業概要	<p>少人数による専門性の高い演習形式の授業である。内容は、各教員の専門によって特化したものになる。理論系のゼミナールでは、各自の設定したテーマについて必要なデータを集めて分析し、論文を作成し、口頭発表する能力を身につける。制作系のゼミナールでは、雑誌・ポスター・CG 作品など、各種メディアにおけるコンテンツ制作を行う能力を演習を通じて身につける。</p> <p>なお、本ゼミナールでは、春学期に於いては全員で雑誌を制作し、学園祭で公開することを目標とする。秋学期に於いては、春学期で習得した記事制作の技能で各人が長文記事または小冊子を制作する。春・秋を通じて、企画・取材・執筆・編集の技法や著作権の知識、ビジュアル処理を会得する。</p>

ゼミナール紹介

担当者名	バンクス祥恵
e-mail アドレス	banks@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	6218
在室曜日・時限	木3-4限、金4限
個別説明会 (日時・場所)	水2限(ゼミ見学) 水・木・金(個別説明会) 研究室 6218
ゼミ見学可能日 (日時・場所)	10月4日、11日 研究室 6218
選抜方法	志望動機 A4 1枚
ゼミナールに 関連する科目	特になし
2017年度担当科目	英語 IB, IIB, 英語再履修、プレゼミナール B、ゼミナール
授業概要	<p>少人数による専門性の高い演習形式の授業である。内容は、各教員の専門によって特化したものになる。理論系のゼミナールでは、各自の設定したテーマについて必要なデータを集めて分析し、論文を作成し、口頭発表する能力を身につける。制作系のゼミナールでは、雑誌・ポスター・CG 作品など、各種メディアにおけるコンテンツ制作を行う能力を演習を通じて身につける。</p> <p>テーマ「メディアと異文化コミュニケーション」 主な研究活動は以下の3つです。</p> <p>①グループ研究：異文化発見 身近なものを国際比較しながら、「異文化」を発見して行きます。また、文化を超えて情報を発信・受信するためには、どのような表現・コミュニケーション方法が有効なのかを分析します。</p> <p>②グループプロジェクト 各グループでテーマを決め、日本を紹介する番組制作を日英両言語で行います。アメリカ、台湾の大学生を対象に発表し、意見交換を行います。</p> <p>③レポート 研究活動の成果をレポートでまとめます。</p> <p>※英語力は問いません。負担にならないようにサポートします。</p> <p>※2017年度活動例</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 世界の流行調査：外国人観光客インタビュー ● テンプル大学のアメリカ人学生との鎌倉合同課外研修・料理教室交流会

ゼミナール紹介

担当者名	日吉 昭彦												
e-mail アドレス	hiyoshi@shonan.bunkyo.ac.jp												
研究室	5405 hiyoshi lab.												
在室曜日・時限	火曜日（3限&5限は授業です） 水曜日 金曜日（3限は授業です）												
個別説明会 （日時・場所）	<p>個別の説明会： 10/4（水）2限、10/11日（水）2限、10/18（水）2限 @5405 教室（日吉研究室） ←3年生もいます。</p> <p>個別説明会以外でも、気軽に研究室（5405）までご相談にいらしてください。随時開催します。その場合、メールで事前連絡があると確実ですが、火曜4限や金曜午後など、ふらりと立ち寄ってくださっても確実に在室していると思います。放課後もOK。</p>												
ゼミ見学可能日 （日時・場所）	10/4（水）2限、10/11日（水）2限、10/18（水）2限 （場所はそれぞれ 5405 教室（日吉研究室））												
選抜方法	定員を超えた場合は、プレゼンテーションを行う予定ですが、基本的には例年、定員を超えても採用しています。												
ゼミナールに 関連する科目	社会調査の関連科目はゼミで役立ちそうです。ゼミの研究成果は冊子として出版するので、デザインや編集などが好きな方はウェルカム！過去にはドキュメントDVDを制作をしたこともあるので、映像編集ができる方も重宝ですね。あと・・・社会学概論も(^)v												
2017 年度担当科目	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 25%;">社会学概論</td> <td style="width: 25%;">メディア社会学</td> <td style="width: 25%;">社会調査論</td> <td style="width: 25%;">メディア調査研究法Ⅲ</td> </tr> <tr> <td>メディア効果論</td> <td>メディア分析法</td> <td>基礎演習A</td> <td>プレゼミナールB</td> </tr> <tr> <td>ゼミナール</td> <td>卒業研究</td> <td colspan="2">ベトナムの言語・文化・産業</td> </tr> </table>	社会学概論	メディア社会学	社会調査論	メディア調査研究法Ⅲ	メディア効果論	メディア分析法	基礎演習A	プレゼミナールB	ゼミナール	卒業研究	ベトナムの言語・文化・産業	
社会学概論	メディア社会学	社会調査論	メディア調査研究法Ⅲ										
メディア効果論	メディア分析法	基礎演習A	プレゼミナールB										
ゼミナール	卒業研究	ベトナムの言語・文化・産業											
授業概要	<p>少人数による専門性の高い演習形式の授業である。内容は、各教員の専門によって特化したものになる。理論系のゼミナールでは、各自の設定したテーマについて必要なデータを集めて分析し、論文を作成し、口頭発表する能力を身につける。制作系のゼミナールでは、雑誌・ポスター・CG 作品など、各種メディアにおけるコンテンツ制作を行う能力を演習を通じて身につける。</p> <p>なお、本ゼミナールは、メディア社会学やマス・コミュニケーション論、メディア文化論などの分野を専門としたいみなさんと学ぶ メディア・スタディーズ・ゼミです。</p> <p>ゼミナール活動の中心は、地域・観光活性化の取り組みのなかのメディアや広報活動の役割に関する共同研究で、これまで、伊豆（2009）、大島（2010）、京都（2012）、宝塚（2013）、鎌倉（2014）、茨城（2015）、佐渡島（2016）、滋賀（2017）をフィールドにしてきました。</p> <p>かつては観光地として栄えていたけれど、現在は人気陰る町で、どのように新たな観光資源を掘り起して再生していけばよいのか？ 失われつつある伝統文化の残る地で、その文化をどのように生かして、持続的な観光戦略を立てていけばよいのか？ そこには、必ずメディアの効果的な活用が必要です。地域フリーペーパーやネットTVの活用、ゆるキャラ利用や聖地化など、取り組みは様々。</p> <p>ゼミナールでは、こうしたメディア活用の現場を訪ねる「取材活動（フィールドワーク）」を行うとともに、関連するメディア分析を行い、事例研究を進めます。</p> <p>なお、フィールドの選定や、どのようなテーマで分析を進めるのかについては、<u>受講生のみなさんの関心に沿って、みなさんが主体的に考えて決めていくアクティブ・ラーニング方式</u>で進めます。</p> <p>共同研究を通じて、担当者の専門であるメディア・メッセージの分析方法である「内容分析」の方法を身に付け、社会でその方法を活用できるようになることが目標です。また、フィールドワークを通じて、インタビュー取材の技術を身に付けるとともに、将来のキャリアに備えた社会的なコミュニケーション能力を身に付けることも合わせて目標とします。毎年、研究成果を出版物の形で公開しているので、メディア制作活動もゼミナールの中心的な活動の一つです。</p>												

ゼミナール紹介

担当者名	藤掛正邦
e-mail アドレス	fujikake@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	5407
在室曜日・時限	月、水、金. 質問ある場合はメールをいただければ回答返信します。
個別説明会 (日時・場所)	なし
ゼミ見学可能日 (日時・場所)	日時：10/4, 10/11, 10/18, の水曜 2 限. 場所：7403 PC 教室
選抜方法	情報表現デザイン、広告表現Ⅰ・Ⅱ、プレゼミナールB、他制作授業、制作サークル、自主作品、大学3年間で制作した作品をクリアファイルA4に入れて研究室に提出。 定員を超えた場合は研究室で面接を実施する(日時は教育支援課から連絡)。 また、GPA、授業作品も参考にして選抜する。ゼミ見学は必須条件。
ゼミナールに 関連する科目	情報表現デザイン、広告表現Ⅰ・Ⅱ、プレゼミナールB、メディア表現論、Webデザイン、
2017年度担当科目	情報表現デザイン、広告表現Ⅰ・Ⅱ、プレゼミナールB、メディア表現論.
授業概要	<p>少人数による専門性の高い演習形式の授業である。内容は、各教員の専門によって特化したものになる。理論系のゼミナールでは、各自の設定したテーマについて必要なデータを集めて分析し、論文を作成し、口頭発表する能力を身につける。制作系のゼミナールでは、雑誌・ポスター・CG作品など、各種メディアにおけるコンテンツ制作を行う能力を演習を通じて身につける。</p> <p>なお、本ゼミナールはグラフィックデザイン、広告表現のコンテンツ制作と発想を学ぶ。春課題は、企業ショップバック、企業商品広告ポスター、ゼミ合宿取材撮影、秋課題は、グループでパンフレット編集、自由企画作品の文化祭展示、東京 or 地元 PR デザイン企画、ポートフォリオ(ゼミ制作作品集)作成。</p> <p>到達目標は、Illustrator CC、Photoshop CC、In Design、WebなどのICTスキルを完成させる。アイデアをスケッチで表現する能力を身につける。日頃から世の中で美しいと思うものを沢山見て美意識を磨く。到達点や完成形を目指し描いたり作ったりする能力、思考力、展開応用力、文章表現力を鍛える。</p> <p>ゼミ到達目標のキャッチコピーは「輝ける場所を見つけられる人になる」。新ゼミ生と協力し、2018年度藤掛ゼミナールを輝ける場所にする。</p>

ゼミナール紹介

担当者名	森岡利行
e-mail アドレス	rojineko@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	情報学部講師室（出講日のみ）
在室曜日・時限	未定
個別説明会 （日時・場所）	なし。
ゼミ見学可能日 （日時・場所）	なし。
選抜方法	舞台・映画・テレビで俳優を生業（職業）にしたい志望者を面談。 前もって講師の映画や演劇などを鑑賞している前向きな人を優先。
ゼミナールに 関連する科目	下記科目。
2017 年度担当科目	映画分析演習。
授業概要	<p>少人数による専門性の高い演習形式の授業である。内容は、各教員の専門によって特化したものになる。理論系のゼミナールでは、各自の設定したテーマについて必要なデータを集めて分析し、論文を作成し、口頭発表する能力を身につける。制作系のゼミナールでは、雑誌・ポスター・CG 作品など、各種メディアにおけるコンテンツ制作を行う能力を演習を通じて身につける。</p> <p>なお、本ゼミナールは舞台・映画・テレビドラマなど実際の現場に即した実践中心の授業カリキュラムで進行、“夢中になれる仕事（演技）と人間関係（俳優・芸能業界のリアル）”を構築する。</p> <p>講師の長年の経験や生きた知識、ノウハウを直接吸収し、俳優として芸能業界で活躍するアドバンテージを目指す。</p> <p>演劇や映像演技の基礎から応用、実践まで段階を追って学び、未経験でも即戦力として活躍できるスキルを習得、最終的には講師演出の元、舞台公演や映像演技を行い、実践的な授業の中で俳優という言葉の意味（人に非ず人を憂う）を探りながら、表現力や技術力を磨き、社会に出てもその“人間力”を発揮できる人材（俳優）を育成する。</p>

ゼミナール紹介

担当者名	飯野 守
e-mail アドレス	iiiiinox@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	3306
在室曜日・時限	火曜日午前、木曜日午前（訪ねてくる場合は、メールで事前に連絡をください）
個別説明会 （日時・場所）	上記在室時間に研究室で個別に対応します。
ゼミ見学可能日 （日時・場所）	10月4日（水）の1、2限。場所は1406教室です。他の日を希望する人はメールで連絡してください。
選抜方法	GPA および面接による。
ゼミナールに 関連する科目	情報社会と法、現代社会と著作権、知的財産法
2017年度担当科目	上記科目に加えて、日本国憲法ほか
授業概要	<p>ゼミナール A は情報社会学科の各教員が専門とする領域をテーマとして、演習形式の授業を通して、その領域についての理解を深めることを目的とする。</p> <p>なお、本ゼミナールではメディア/コミュニケーションと法に関わる課題を扱います。と はいうものの、入り口は何でも構いません。例えば、AI や SNS、あるいは、映像のネット配 信など、今関心があることを法的な課題として捉え、解決の方向を探ることを目標としたい と思います。</p> <p>春学期は基礎知識を確認するための基本的文献の購読、並びに、個人の研究の準備を行 います。購読する文献は受講者と相談して決めたいと思います。秋学期は主として各自が決め た研究テーマについて報告をしてもらい、皆で討論をしながらテーマを深めていくこととし ます。</p> <p>メディア/コミュニケーションと法に関わる様々な課題について、その問題の所在や解決 方法の当否等について自分で判断する力を身につけることを全体の目標とします。ニュー スで報道されるようなトラブル事例や、身の回りにある素材について法的な視点から分析して 解明する力を身に付けることは将来必ず役に立つはずで</p>

ゼミナール紹介

担当者名	石野 正彦
e-mail アドレス	ishino@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	6219 研究室 (6号館2階)
在室曜日・時限	月曜日 1, 2, 5 限、火曜日 1, 3, 5 限、水曜日 4, 5 限、場所:6219 研究室 ※先生が会議で不在の場合があるので事前にメールして下さい。
個別説明会 (日時・場所)	月曜日 1, 2, 5 限、火曜日 1, 3, 5 限、水曜日 4, 5 限、場所:6219 研究室 ※先生が会議で不在の場合があるので事前にメールして下さい。
ゼミ見学可能日 (日時・場所)	月曜日 1, 2, 5 限、火曜日 1, 3, 5 限、水曜日 1, 2, 3, 4, 5 限、場所:6219 研究室 ※水曜日 2 限は3年生のゼミ時間で学生が説明できます。先生が会議で不在の場合があるので事前にメールして下さい。
選抜方法	ゼミ志望書と面談による選抜
ゼミナールに 関連する科目	情報サービス産業の理解、ソフトウェアの品質、ビジネス情報処理演習、総合演習 A, B ※未来の情報社会に関心があってスマホのアプリが使えれば、IT 専門知識やプログラミング技術の必要性は全くない。
2017 年度担当科目	情報サービス産業の理解、ソフトウェアの品質、キャリア形成基礎、ビジネス情報処理演習、ソフトウェア開発計画、ソフトウェアの構成とテスト、総合演習 A・B、学外実習 A・B
授業概要	<p>ゼミナール A は情報社会学科の各教員が専門とする領域をテーマとして、演習形式の授業を通して、その領域についての理解を深めることを目的とする。</p> <p>なお、本ゼミナールは下記から自由にテーマを選択し、学生自身が関心を持つ分野を研究する。また、各人のゼミナールの成果は IT 関連企業の実務者に紹介して、講評を頂く機会も企画する。優秀な研究成果・作品が期待できる場合は、学会やのコンテストにエントリーして受賞を目指す。</p> <p>1. ゼミナールの到達目標とコンセプト</p> <p>①デジタル社会の進化に向けた最新技術を体験し、実学応用能力の獲得を到達目標とする。 ②デジタル社会の未来予想と夢の実現の探求。(注1)実学能力とは社会に出て有効な応用力, 発想力, 閃き ③IoT(Internet of Things)ビジネスモデルの企画 (注2)ビジネスモデルとは儲かるアイデア, しくみづくり</p> <p>2. ゼミナールの主なテーマと活動概要 ⇒下記の候補テーマから選択する。</p> <p>①情報社会で進化するスマホ, ウェアラブルセンサー, IoT, AI(人工知能)アプリ, ゲーム, ロボット, AR・VR・MR・CG, 3D プリンタ, ドローン等を活用した事例研究と体験, 作品制作。 ②IoT, AI, SNS, スマホアプリでビジネスモデルのアイデアの創造。(ベンチャーに挑戦) ③日常生活での ICT 活用～IoT, AI, SNS, LINE, クラウド, アプリ, ウェアラブルの応用提案。 ④ビッグデータの分析で Web マーケティング, 商品トレンド, 気候変動などの予測・発見。 ⑤IoT, AI 活用のビジネスモデルの企画・提案。(例)Facebook による社会コミュニティ提案。</p> <p>3. ゼミナールの授業日、ツールと成績評価</p> <p>①毎週水曜日 2 限に指定した PC 教室で実施する。テーマに応じた機材・ツールを準備する。 ②研究成果と学習態度が優れているか、学期当初計画の目標達成度により成績を評価する。</p> <p>4. 将来のビジネスへの展開とキャリア研究</p> <p>①各成果のビジネス展開。事例研究、キャリア研究、スペシャリスト、バイタリティ研磨。 ②論文作成, プレゼンテーション, リーダシップ能力と資格取得、潜在能力のブレーク法。</p> <p>本ゼミナールは将来の情報社会の生活で不可欠な情報技術を駆使してアイデアを創造する。様々な体験で先進情報社会へ飛躍できる実学人養成です。先端技術による情報社会を描く!</p> <p>《メッセージ》IT ビジネスの仕事に就いていた経験から、情報社会のニーズにマッチした将来の IT メディア構想について、一緒に考え、体験を通じて目標成果の達成や作品を制作します。日々、スマホの多くのアプリを巧みに活用して「イノベーション的な発想」を発信しよう!</p>

ゼミナール紹介

担当者名	佐久間勲
e-mail アドレス	isao@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	3313 研究室
在室曜日・時限	原則として、月曜日 2 限、水曜日昼休み、金曜日 2 限と昼休み。ただし会議やその他の業務の都合で不在の場合もしばしばあります。事前にメールでアポイントメントを取ることをお勧めします。
個別説明会 (日時・場所)	個別説明会は実施いたしません。その代わりに、上記の在室曜日・時限に研究室にて個別相談を実施いたします (一人でも複数人でも可)。
ゼミ見学可能日 (日時・場所)	現在のところ予定はありませんが、実施する場合は、ゼミの web サイト (http://open.shonan.bunkyo.ac.jp/~isao/) に掲載します。
選抜方法	2 年生春学期までの成績、履修科目、個別相談の有無に応じて決めます。
ゼミナールに 関連する科目	社会心理学概論、調査集計法 A、調査集計法 B
2017 年度担当科目	社会心理学概論、調査集計法 A、調査集計法 B、説得コミュニケーション論など
授業概要	<p>ゼミナール A は情報社会学科の各教員が専門とする領域をテーマとして、演習形式の授業を通して、その領域についての理解を深めることを目的とする。</p> <p>本ゼミナールは、社会心理学研究 (実験、調査、内容分析を実施し、そこで得られたデータに基づいて主張をするタイプの研究) を実施できる能力を育成することを大きな目標とします。研究テーマとしては情報学部のゼミナールということで主にメディアやコミュニケーションに関するもの、たとえば、「スマホ依存がコミュニケーション能力に及ぼす影響」「SNS 利用が対人関係に及ぼす影響」「インターネットが精神的健康に及ぼす影響」「送り手の専門性が説得コミュニケーションの効果に及ぼす影響」「姿勢やしぐさが印象に及ぼす影響」などを想定していますが、もちろんこれらに限定しません。</p> <p>本ゼミナール内での具体的な活動は以下の 2 つの課題になります。(1)グループ研究: グループである特定のテーマで実証的研究を行い、その成果をレポートにまとめて、プレゼンテーションをします。本年度は「テレビ親近感と社会的属性の関連」、一昨年度は「携帯依存とコミュニケーションスキル」「テレビ親近感と孤独感」をテーマにした質問紙調査を実施しました。(2)研究論文および文献の収集と発表: 各自の関心に基づき、そのテーマに関連する論文や文献を収集し、そのうちのいくつかを取り上げて発表してもらい、全員で討論します。発表を通して、社会心理学の研究内容はもちろんのこと、研究方法、研究論文の書き方についても理解を深めます。</p>

ゼミナール紹介

担当者名	関 哲朗
e-mail アドレス	seki@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	3415
在室曜日・時限	水、木、金（その後も居るかもしれません）
個別説明会 （日時・場所）	随時。 研究室に直接来てもらって構いませんが、メールで予約してもらった方が良いです。
ゼミ見学可能日 （日時・場所）	水曜2限。 秋学期は個別指導中心なのですが、先輩の話を知りたいければどうぞ。
選抜方法	GPA 順。
ゼミナールに 関連する科目	情報社会学科の専門科目全般。
2017 年度担当科目	人間愛と情報社会、成功のプランニング、プロジェクトマネジメント、アルゴリズム とデータ構造、情報と産業、情報とシステム、システム開発論、情報技術史基礎演習 A、総合演習 C
授業概要	<p>ゼミナール A は情報社会学科の各教員が専門とする領域をテーマとして、演習形式の授業を通して、その領域についての理解を深めることを目的とする。</p> <p>本ゼミナールは、情報システムやソフトウェア開発の成功・不成功の原因の考察と、成功の継続の仕方、不成功の改善方法について調査と研究を進めます。</p> <p><u>始めに、本ゼミナールでは、数学の知識、プログラミング能力を前提としていません。</u></p> <p>シラバスにはいろいろ書いたような気がしますが、実際には</p> <p><u>前提知識の状況や希望などによって、自由にテーマを決め、進め方を考えたいと思います。</u></p> <p>いずれにしても、情報システム開発、ソフトウェア開発の最先端を調査し、まとめ、考察することで、情報社会とそこにある企業、組織から期待される成果を示すことを目標とします。</p> <p>結果として、IT企業が求めるスキル、資格の1位と表現されるプロジェクトマネジメントのスキルを身に付け、社会で活躍する基礎力をつけていきます。</p> <p><u>情報関連企業で将来活躍することを希望する人には、最適な学習環境となると思います。</u></p> <p>ゼミは、グループまたは個人で調査してきたものを発表し、これをもとに議論することで、各自の知識、考える力を育てるように進めていきます。発表を通して、情報社会やプロジェクトマネジメントに関する研究内容はもちろんのこと、各自の研究方法の確立、研究論文の書き方の修得を進めていきます。</p>

ゼミナール紹介

担当者名	松本修一
e-mail アドレス	shuichi@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	1115 研究室
在室曜日・時限	月曜～金曜
個別説明会 (日時・場所)	10月4日、11日18日お昼休み 1115 研究室
ゼミ見学可能日 (日時・場所)	10月11日、18日 1115 研究室
選抜方法	面接を行う予定
ゼミナールに 関連する科目	特になし
2017 年度担当科目	社会システムモデリング、経済性の科学、不確実性とリスクのマネジメント、基礎演習 A、総合演習 C
授業概要	<p>ゼミナール A は情報社会学科の各教員が専門とする領域をテーマとして、演習形式の授業を通して、その領域についての理解を深めることを目的とする。</p> <p>なお、本ゼミナールでは、専門の研究論文を交替で読む輪講および各自が教員と相談しテーマを決めて行う研究の 2 つを並行して行うことを予定している。このような学術的な経験を通じ、今後社会に出る際必要とされる、論理的思考能力、プレゼンテーション力など様々な素養を身に付けることが出来る。</p>

ゼミナール紹介

担当者名	村井 睦
e-mail アドレス	https://sites.google.com/a/shonan.bunkyo.ac.jp/murai/ を確認
研究室	3409
在室曜日・時限	https://sites.google.com/a/shonan.bunkyo.ac.jp/murai/ の office hour を確認
個別説明会 (日時・場所)	<ul style="list-style-type: none"> ・説明会はおこないません。 ・ゼミの説明を希望する皆さんへは個別面談をおこないます。 *メールにてアポを取って下さい。
ゼミ見学可能日 (日時・場所)	<ul style="list-style-type: none"> ・見学日は別途資料の通りですが、場所や時間は現在のところ未定です。 *メールにてアポを取って下さい。
選抜方法	本ゼミナールでは毎年メディア表現学科の学生を受け入れています。今までの受け入れ人数は規定上の最大数を受け入れています。(昨年度までは3名、今年度から4名) 選抜方法は面接やGPAを総合的に勘案します。
ゼミナールに関連する科目	なし
2017年度担当科目	基礎演習 B、総合演習 C、インタラクティブメディア概論、コミュニケーションデザイン演習、クリエイティブ演習
授業概要	<p>ゼミナール A は情報社会学科の各教員が専門とする領域をテーマとして、演習形式の授業を通して、その領域についての理解を深めることを目的とする。</p> <p>なお、本ゼミナールでは、新しい技術を積極的に取り入れ、旧来からの表現の枠にとらわれない新しい視覚伝達の領域を模索していく。映像・紙・Webなどのメディアを横断的に学ぶ事により総合的な表現力や情報発信力を習得する事を目的とする。またグループワークを多く取り入れてコミュニケーション能力を高める事も重要な学習目的となる。</p> <p>*詳細は下記を参照してください。</p> <p>https://sites.google.com/a/shonan.bunkyo.ac.jp/murai/</p>